

平成 25 年度 公益財団法人山形市文化振興事業団 事業計画

1 山寺芭蕉記念館事業

(1) 展示事業

- ① 企画展「(仮称) 長谷川コレクションに見る山形の名品展」(5月頃)
書画・陶磁器などの山形に伝わる名品を公開します。
- ② 企画展「(仮称) 山寺」(9月頃)
山寺の歴史と共に芭蕉などの俳人・文人や画家に与えた影響に焦点をあて、山寺を文化との関わりから理解する一助とする。
- ③ 企画展「瀬原退蔵・尾形侑コレクション展」(10月～11月)
瀬原退蔵・尾形侑コレクション展を行い、国文学者尾形侑先生のご遺族から寄贈された国文学資料を一堂に公開して、蕪村資料など貴重な俳諧・美術資料を鑑賞する機会とする。
- ④ 企画展「市民企画展」(12月～1月)
市民の団体から発案された企画によって、市民の収蔵品、作品等を展示する。企画は募集の上、応募企画案の中から選考する。
- ⑤ 企画展「お雛さまの歴史と美」(2月～3月)
江戸時代の雛人形を中心に展示。雛人形や桃の節句の歴史とその美術を紹介し、日本文化の美を考え、芭蕉がふれた文化の一端を理解する一助とする。
- ⑥ 常設展(企画展以外の期間)
常設の展示の中で松尾芭蕉について、その実像と業績を伝える。また、収蔵品中から各種テーマを設け、それに合わせて選出した資料でテーマ・コーナーを設置することで、展示を多彩な内容で構成して作品の魅力を引き出す。

(2) 普及啓発事業

- ① 第 56 回全国俳句山寺大会(7月14日)
俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。
- ② 第 5 回山寺芭蕉記念館英語俳句大会
英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とする。

③ 第44回芭蕉忌俳句大会（10月下旬頃）

俳句の普及と振興をはかるため、山形県芸術文化会議、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④ 第23回山寺芭蕉記念館文化セミナー

第1部「日本の復興と文化（仮称）」（7～8月頃）

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座によって、市民文化の向上をはかると共に新たな視点を提示する。

第2部「山寺の歴史・文化（仮称）」（10月～11月）

山寺の歴史と文化を探る講座を開設し、市民文化の向上の一助とする。山形大学の奥の細道マイスター講座（初級編）の講座の一部との協賛企画として開催する。

⑤ 芭蕉を偲んで投句しよう（通年）

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、投句選を行う。

⑥ 山寺芭蕉記念館子ども俳句道場（通年）

芭蕉を偲んで投句しようの小中学生版として実施する。俳句を通して松尾芭蕉や山寺、山寺芭蕉記念館への理解を深める機会とする。

⑦ ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開していく。

⑧ 『山形市山寺芭蕉記念館だより』〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の公開を行ない山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

⑨ 市民茶会（通年）

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑩ 茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く）

抹茶の呈茶を常時行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑪ 山寺感謝の茶会（11月頃）

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

2 最上義光歴史館事業

(1) 展示事業

① 企画展「市民の宝モノ 2014」展 【継続企画】（1月～4月）

山形市民を対象に、所蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館で選考して展示し、広く一般に公開する。市民参加型の展覧会として毎年継続的に開催する。

② 常設展示

最上義光を主とした最上家関係資料と山形城関係資料、山形に関わる文化財などを展示紹介しながら下記のテーマで一部コーナー展示を行う。

① 「鐵の美 2013」（4月～7月）

収蔵刀剣の公開を行い、武器であり美術品でもある日本刀の美しさを紹介する。

② 「(仮称) 特別公開『最上義光等連歌巻/賦何船連歌』」（7月～9月）

このたび山形市で購入した『賦何船連歌』の初公開を行うとともに、『賦何牆連歌』県指定有形文化財、『賦春何連謠』光明寺寄託/市指定有形文化財など当館所蔵の最上義光連歌を一挙公開します。

③ 「(仮称) 屏風絵の四季彩」（11月12日-1月14日）

季節に合わせた資料(屏風)の公開を行う。「葡萄棚図屏風」「すすき図屏風」「四季花鳥図屏風」などを公開する。

(2) 普及啓発事業

① こども講座

山形市内の小学校に出向き、郷土の歴史に触れる機会をつくり、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心を育てる一助とします。

② ボランティアに係わる事業

最上義光と最上家を啓蒙することについて歴史館とともに活動する市民が、ボランティアという形で歴史館のサポーターとなって、来館者の多様化するニーズに応え、きめ細かなサービスの提供を図るとともに、歴史館を核としたコミュニティーを創出します。

① 「義光塾」〔年5回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

② 「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等を現地研修し、現地に赴くことによりボランティアが郷土史と文化財に対する知識と理解を深め、来館者に対してより質の高い接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

③ I Tに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開していく。

④ 『館だより』の発行〔年1回〕

事業報告や考察、山形の歴史や最上家に関する情報を広く一般に提供し、最上義光歴史館の文化活動に対する理解を求めることを目的とする。

(3) 調査研究事業

① 最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

3 受託事業(最上義光公没後 400 年記念事業)

(1) 特別展「(仮称)重要文化財 光明寺本「遊行上人絵」

～最上義光没後四百年記念全巻公開(9月14日～11月10日)

山形市光明寺伝来の紙本著色「遊行上人絵」十巻は、最上義光が文禄三年(1594)に狩野宗秀に描かせ、最上家初代斯波兼頼の菩提寺光明寺に寄進した絵巻物語である。本展覧会は、記念の年に展示紹介することによって、市民が最上家ゆかりの一級資料であり絵画の優品である本資料を鑑賞する特別な機会とする。

(2) 「(仮称)山形を築いた最上義光公」刊行業務

義光公没後 400 年記念の節目に当たり、功績と人物像をわかりやすく解説し、併せて連歌巻をはじめとする最上家関連の宝物・所蔵資料を紹介する書籍を刊行する。